日文教授用資料［小学校社会］

楽しい学びdeクラスをつくる

Vol.12



大滝 文平

Vol.12は？ 1時間の授業を深掘りシリーズ その❷「展開」編

「導入編（Vol.11）」「展開編（Vol.12）」「まとめ編（Vol.13）」と授業を深掘り！



子どもが思考を深め『展開』？

～考え・伝え合い・また考える～

「私は〇〇と思います。それは～～だからです」
「うーん、それもわかるけど…。でも私は…」
「資料集の〇ページを見るとわかるよ」
「私が調べてきたことによると～～だとわかりました」

活気のある話し合いが「展開」されてほしいものです。マンガの1コマ目では「導入編」を経て、本時の学習問題についてそれぞれの考えを伝え合うところです。このとき、教師は何をすればよいでしょうか。「誰を指名するか？」「板書は？」「資料はいつ出そうか？」「残り時間は？」など、様々な「どうしようの“？”」が浮かび、「どうしてよいかわからない！」になってしまうことも。教師の視点に立って見るとその気持ちよくわかります。では、子どもにとって「展開」はどのような時間でしょうか。ズバリ！「学習活動（話し合い・調査等）を通して、思考を深める時間（社会的な見方・考え方を広げ深める時間）」です。この視点に立って考えると教師の役割が少しずつ整理されるのではないでしょうか。と言うわけで今回は「展開編」です。子どもが生き生きと学習活動を展開する姿をイメージしながら、「展開」について考えていきましょう！ 次ページへGO！ 深めるぞ「展開」！

（横浜市立森の台小学校　大滝 文平）

日文のWebサイト
日文



※本冊子掲載二次元コードのリンク先コンテンツは予告なく変更または削除する場合があります。
本資料は、一般社団法人教科書協会「教科書発行者行動規範」に則り、配布を許可されているものです。

心が動く、その先へ。
日本文教出版



子どもが思考を深める「展開」3か条！

1. 本時（単元）目標を常に意識する！
2. 子どもの発言をしっかり聞く！
3. プラン通りに進めない！？

上記３つは、これまで私が、研究授業などの実践で「あー失敗したー」って思ったときに、ふり返るとできていなかったり、協議会で指摘されたりしたことです。どれも「展開」時に特に意識するべきことだと思います。

1 本時目標を常に意識する！

本時目標って、意外と軽視されていませんか？本時で到達すべき子どもの姿が「本時目標」であり、その姿を表出するためには「展開」での学びにかかっています。しかし、授業者は、様々な「やるべきこと」に追われがちではないでしょうか。大切なことではありますが、これらの判断も「本時目標は○○だから、今は～にしよう」と本時目標を意識するだけで、判断できることが増えると思います。



2 子どもの発言をしっかり聞く！

当たり前ですよね。でも、「しっかり」なのです。学習問題に対して、この子の発言は、学習問題に沿っているか、根拠をもとにしているか、何を根拠にしているか、本時目標に向かっているか（1と関連しています）、をしっかり聞くのです。最初は、発言する子を見て、丁寧に受けとめたいものです。



それを受けて、「問い返して根拠をもっと明確にしよう」「この子の発言を全体化しよう」など、次の手立てを考え実行します。このような営みの繰り返しが、子どもの深い思考へとつながるのです。

3 プラン通りに進めない！？

最後に変な掟が出てきました。おそらく指導案上などで「展開」が、一番時間を要していると思います。その中で、「この辺りであの資料を提示しよう」「この発問をしよう」と計画していることでしょう。

1本時目標の到達を意識して、2子どもの発言を丁寧に聞くことで、その計画はきっと変わってくるはずです。「この子の今の発言を受けて資料を出したほうが、より本時目標に到達する！」そうなのです。計画通りに進まないのが授業！ やはり、授業「展開」時も、主語を「私（教師）」ではなく→「子ども」に置き換えて考え、実践することが大切なのです。



（横浜市立森の台小学校　大滝 文平）

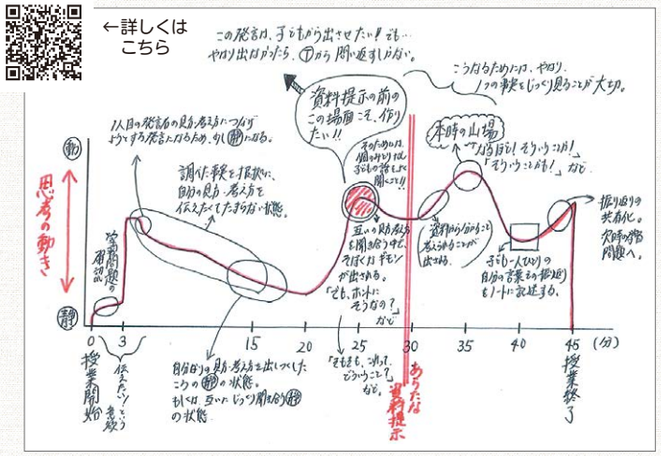
子どもが「自分の考え」を“問い返す”そして、“捉え直す”

そんな姿をめざすには、展開で何にかを入れる？

6年「横浜開港と新しい時代」～井伊直弼の見つめている未来は～

横浜市立日枝小学校　石川 和之

←詳しくはこちら

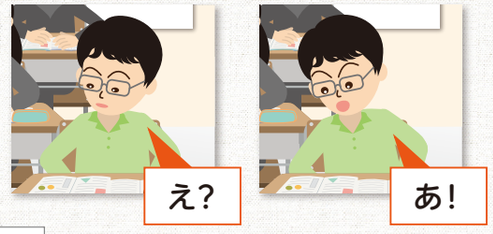


私の考える45分間のタイムマネジメント図。「展開」に焦点をあてます。子どもの「思考の動き」の一番の山場「あ！そうか！」（35分あたり）をつくるには、「その直前の山（25分あたり）をどうつくり出せるか」がポイントになります。

展開の叫び1 子どもの「ん？」をつくる。え？ あ！ ん？ どういうこと？

具体的な子どもの姿で考えてみましょう。以下は、６年歴史単元「横浜開港と新しい時代～井伊直弼の見つめている未来は～」全10時間の８時間目の授業25分頃の様子です。

Aさんの表情の変化をご覧ください。







それまで授業20分あたりまで「そう、そう」と思いながら友達の話を聞いていたのですが、ある子の発言で「ん？」となるのです。そして「どういうこと？」と、改めて黒板に整理されている「友達との思考の足跡」を見直そうとするのです。左のＢさんもそうですね。

令和８年10月に次期学習指導要領に向けた「審議まとめ」が出ました。小学校社会科の「目標のあり方」の記述の中に「より一層深い学びを具現化する観点から、自らの考えを批判的に捉え直す力の観点を追記する」とあります。

展開の叫び2 45分の中で「ん？」をつくる。単元の中でも「ん？」をつくる。

単元の導入。鎌倉幕府成立から大政奉還まで700年近くも「武士による政治」が続きますが、その終焉のキッカケとなったのは紛れもなく「ペリー来航」です。まずは「ペリーが浦賀から江戸湾に現れたときの様子の絵」をじっくり見ながら気づいたことを友達どうしで出し合います。



（日本文教出版『小学社会 6年』p.168より）

大きな黒船を前に、慌てふためいている日本人の様子がわかります。「ペリーが来航した1853年」から「大政奉還をした1867年」までの14年間に何があったのか調べると、その後の日本の歴史を決定づける2つの条約、1854年の日米和親条約と1858年6月19日に調印された日米修好通商条約が結ばれたことを突き止めます。

※詳しい授業の構想はここから→



（日本文教出版『小学社会 6年』p.169より）

日米和親条約が結ばれたときにペリーが上陸した横浜の様子が上の絵。右側にある「たまくすの木」と日米修好通商条約を結んだ「井伊直弼の像」を見るために横浜見学に行きました。ふり返りの中で、「井伊直弼は彦根藩（滋賀県）出身なのに、どうして横浜に像があるの？」と疑問をもちます。すると、井伊直弼が1858年に条約に反対した人を処罰したことを知ります（安政の大獄）。そして1860年には直弼が暗殺されてしまうこと（桜田門外の変）も知ります。子どもたちは「そもそもどうして条約に反対する人がいたのか」、気になって調べていくことになるのです。Cさんのふり返りです。



▲井伊直弼の像



条約を結ぶ前後の年表

年	月日	出来事
1846		井伊直弼が彦根藩の世継ぎとなる。
1847		彦根藩が浦賀の警備を命ぜられる。
1850		井伊直弼が彦根藩の藩主になる。
1853	6月	ペリーが浦賀に来航。久里浜へ上陸。大統領の国書をわたす。
	8月	井伊直弼は、意見書を幕府に2度提出し、開国を主張する。
1854	1/16	ペリーが国書の返事をもらいにもう一度日本に来る。
	1/28	幕府の会議で直弼が、徳川斉昭の「外国船打ち払い論」に反対する。
	2/10	ペリー、幕府の役人と話し合いが始まる。
	3/3	日米和親条約を横浜開港資料館の場所で結ぶ。
1856	7月	下田にハリスが来て、住むようになる。
1857	10月	ハリスが直接江戸に来て、通商条約（貿易）の必要性を訴える。
	12月	ハリスが通商条約の案をまとめ提示。日本も一緒に考える。
1858	1/20	日米修好通商条約の案が完成
	1/21	ハリス、体調を崩し、一時、下田に戻る。
	2月	朝廷に勅許（条約のゆるし）をもらおうとしたが、差し戻される。
	4月	井伊直弼が大老になる。 ハリスに条約の調印を3か月待ってくれと頼む。
	6/18	ハリスが江戸に来て、条約の調印を迫る。
	6/19	アメリカと日米修好通商条約を結ぶ。 その後、オランダ、ロシア、イギリス、フランスとも結ぶ。
	8月	朝廷が幕府に、条約のとりやめを求める。 条約に反対する人たちが、幕府を倒す計画を立て始める。
	9月	井伊直弼が、幕府を倒す計画をする人を厳しく罰し始める。
1859	6/2	横浜が開港する。
1860	3/3	井伊直弼が暗殺されて亡くなる。

私は井伊直弼について、昔はいい人だったのかもしれないけど、大老になってから自分の意見（幕府の取り決め）に反対する人を処罰するというのはとても悪い人だと思う。暗殺されたのは自業自得だと思う。

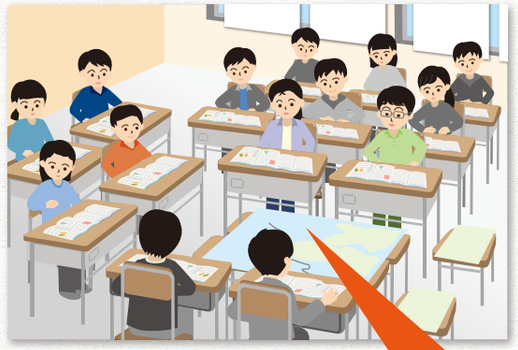
京都にいた天皇や水戸の徳川斉昭は特に条約に反対していました。結ばれる条約が不平等であったことも子どもたちは突き止めていきます。

井伊直弼は殺されるのをわかっていたのだと思う。でも、どうしてかわからないけど、何らかの理由で条約を結んでしまったのだと思う。反対されながらも条約を結んだら殺されるのもわかっていた。それなのに、どうして結んだのか…、わからない。

このように、子どもたちの「わかってきたようでどうしてもわからなくなってきた問い」が明確になってきました。「どうして井伊直弼は、たくさん反対している人がいるのに、条約を結ぶ決断をしたのかな」焦点化された「ん？」です。

展開の叫び3　一番の山場の「直前の山（25分前後）」は「個の見取り」でこそ、作れ！

冒頭の８時間目の授業です。



…とは言っても、こんなに周りは反対しているのに条約を決断するって、よっぽどのことがあったんじゃないのかな…。

このように悩む子どもたちの20分あたりです。

すると、Dさんが次のように発言します。



決断する直前に、中国がイギリスに戦争で負けて植民地にさせられそうだったらしいです。

当時日本はアメリカと交渉していたけど、中国はさらに強いイギリスと交渉していて結局アヘン戦争という戦争になって負けたんです。

さらに右のＥさんも発言。このタイミングで冒頭の子Ａさんの表情につながります。「アヘン戦争？イギリス？どういうこと？アメリカとじゃなかったの？」と、悩み始めるのです。そこでずっと参考にし続けてきた日本周辺の地図に集まり始める子どもたち。「日本の周りがどうなっていたか、もう一度確認してみる？」と問いかける私。





アメリカからペリーがインド経由で日本に来たとき、周りの国が徐々に西欧諸国の植民地になっていった事実を、ゆっくり示しました。



８時間目、Ｃさんのふり返りです。

今日考えて、井伊直弼はいい人なんじゃないかと思い始めている。井伊直弼が条約を結ばなかったら、今の日本はないのかもしれないと思ったから。すごくよく考えて決断したのだと思う。開国しなかったら、日本がメチャクチャになると予想できたから、やむを得ず結んだ。幕府の周りの人や天皇は、自分の感情に任せて反対していたのかもしれない。でもやっぱり、安政の大獄はちょっとひどい。他にやり方はなかったのかな。

Ｄ・Ｅさんの発見について、私は事前に見取っていました。特にＥさんについてはこの２時間前にみんなの前で伝えてもいます。それでもこの「子どもの“思考の動き”一番の山場“あ！そうか！”（35分あたり）」は、p.3のＡさんの表情に表されるような「直前の山（25分前後）」がなければ、効果の発揮は難しい。子どもが自分の考えを問い返し、さらに捉え直すには、どうしても「直前の山（25分前後）」の「ん？」が必要なのです。

さて、このあとの子どもたちは「井伊直弼が亡くなった後、日本はどうなったのかな」について、廃藩置県や四民平等などの改革や文明開化の具体などをすごい集中力で調べていきました。井伊直弼の想いを引き継いだ取り組みの数々に笑みを浮かべてもいるようでした。

「愛のチョークで引田が斬る!」

（横浜市立あざみ野第二小学校　引田 雄士）



今回は展開の進め方について石川氏の実践を通して伝えていただいた！石川実践は本当にすばらしい…しかし、皆の衆が展開についてこんなに悩んでいるのに、すぐにうまく行くわけがなかろう！石川氏も山ほど失敗したに違いない！そこをどんどん斬っていくぞい！「愛のチョーク、見参！」

シャキーン！愛のチョーク！ 展開のときにうまくいかなかったことはなんじゃ？

かっこよく「一番の山場の“直前の山（25分前後）”」は「個の見取り」でこそ、作れ！だなんて書きましたが、実際そんなにかっこよく見取れるものではありません。「え？なんで今そんなことを言うの？」と立ち尽くしてしまうことも多々ありました。いわゆる立ち往生してしまうのです。私が子どもの発言に。

詳しくは「楽しい学びvol.7」のシャカチューページに書きましたが、6年政治単元の待機児童ゼロ実践。「さらに高齢化は深刻になっていくのに、そんなに待機児童にお金を使う必要はない」といったことを言ってくれるはずだったTさん。それなのに、実際は「そもそもなんで“待機児童”って言葉があるんですか？」と授業の展開半ばで友達に問い出したんです。もう、ビックリ。何とかその真意を考えよう考えようと友達と私も必死に。しかしTさんの発言は、実はものすごく学びを深めてくれることになるんですよね。子どもって、もう本当にすごいです。



シャキーン！愛のチョーク！ なるほど！『個の見取り』をしていても失敗はあるんだな。では、そこから学んだことは何じゃ？

「よし、今回は結構しっかり見取れたぞ！」と思って授業に臨めたときも、子どもの発言に一喜一憂しすぎないこと、でしょうか(^^♪。「おっ、そんなことを考えていたの!? おもしろい!! 聞かせて聞かせて!」と、「見取れていたこと以上に素敵な気づきを出してくれるんじゃないかな♪」と、おもしろがること。この「おもしろがる」が、結構大事だなぁと思います。



結局「見取り」って子どもの姿を丸ごと見取ることだと思います。具体的に言うと「他教科や道徳などの授業での気づき」や、「縦割り活動や運動会といった学校行事での経験での気づき」も含めて。学校から帰ってからの家庭生活での経験もそうです。

井伊直弼実践でも、ある子が「縦割り活動でいきなり他学年と仲よくなれと言われても難しかった。だから当時の日本人が悩みに悩んだのもよくわかる」と発言していました。このように自分の実際の経験と結びつくことで「わかる」がさらに「深くわかる」に変わっていくのだろうと思います。

「個の見取り」って、教材研究以上にものすごく重要なんだとヒシヒシ感じる今日この頃です。



今回は石川氏の失敗談を伝えさせていただいた。石川氏の子どもを大切にする気持ちがすばらしい!!と言うわけで、今回も全く斬れないのぉ（お決まりになってきた!?）。無念！それでは御免！

みんなで楽しく学ぼう！ 先生たちの勉強の場（今年で10年目）紹介！

社会科を中心とした、子どもが主役の学びを創造し合う場。それが「北学場（きたまなば）」

北学場

遅刻・早退OK！事前申し込みも不要！

北学場　〈連絡先〉大滝 文平
kitamanaba@gmail.com

横浜市北部（青葉区、都筑区、緑区、港北区）の社会科有志が中心となって発足した、緩やかなお勉強の場です。

発足して10年目になりますが、今では横浜市内・市外の初任者をはじめ、経験の浅い先生、中堅・ベテランの先生、管理職やOBの先生などなど、あらゆる立場の先生方がフラットな関係で、ざっくばらんに語り合っています。ご興味がございましたら、連絡（メール）をいただければ案内チラシを送らせていただきます。

MASAYA presents

Masaya 僕も、 Masaya 僕以外も。

社会科の学習をよりよくしたいと思っているのは、僕も僕以外の皆さんもきっともっている気持ちだと思います。今回は、「展開」について、一緒に考えていきましょう。

横浜市立釜利谷南小学校　山本 雅也



今回のテーマ 思考を深める展開について考えてみよう

思考を深める展開のためには、どのようなことが大切になるのでしょう。例えば、子どもたちが追究する学習問題が明確である、自分の考えを発言している、子どもが用意した資料や教師が提示した資料を読み取る中で話し合いが活発に行われているなど、様々な要素が考えられます。今回は、**❶「ズレ」のある学習問題の設定**、**❷子どもの心を動かす仕掛け**の２点についてお伝えします。

1 「ズレ」のある学習問題を設定しよう

思考を深める展開には、やはり「学習問題」が大切になります。「○○なのに、どうして△△だろう」のように、子どもの考えを揺さぶる「ズレ」のある学習問題を設定するようにしましょう。

事実と事実に「ズレ」のある学習問題

「Aは増えているが、Bは減っている」のように、事実が相反する状態になっている学習問題。

子どもたちの考えに「ズレ」のある学習問題

「Aがいいと思う」「Bがいいと思う」のように、意見が一つにまとまらず、子どもの考えがずれる学習問題。

教師が設定する学習問題では、「先生が言っているから考えよう」というように受け身の参加になる子どもが多くなります。**学習問題を子どもと一緒に設定すること**で、子どもにとって自分ごとになり、「えー！」や「どうして？」などの発言を引き出し、子どもの心を動かすきっかけになります。

2 子どもの心を動かす仕掛けを工夫しよう

話し合いの場面では、**子どもたち一人ひとりがしっかりと考え、安心して自分の考えを伝えられる雰囲気をつくること**が大切になります。子どもたちが一生懸命話し合いができるように心がけているポイントを紹介します。

ポイント1

一人ひとりが考えをもつ

考えることが苦手な子どもと対話しながら、意見を整理してまとめる。

→書くことや資料をもとに考えることが苦手な子どもとは、対話を通して考えをもてるようにするなどして、全員が意見をもって話し合いに臨めるようにしています。

ポイント2

その子の(強い)思いを大切にする

立場が違う意見も尊重する。

→友達の意見を受け入れて、温かい雰囲気で話し合いができるようにしています。



ポイント3

友達の話をしっかり聞く

気になったことを質問する。

→教師が問い返すだけでなく、子どもどうしで質問し合えるようにしています。



YUKIKOの部屋 Check point!



1時間の展開

授業前に、その1時間の目標や、単元のこれまでの流れや今後の流れから、どのような1時間にするか展開を考えます。「○○さんはどんな反応をするかな?」「□□さんは～が好きだからこれは取り上げたいな」と、子どもたちを思い浮かべながら資料などを作ります。

とは言え、事前に考えていても、実際に授業をしてみないと子どもたちの反応がどうかはわかりません。このタイミングでこの手立てをしてよかったと思うこともあれば、もっと違う手立てができたのではないかと思うこともあります。「もっと違う発問だったら…」「構造がわかる板書にしていれば…」「他の資料だったら…」と、やってみて気づくことがたくさんあります。同じ学年でも、子どもによってそれは変わります。思い通りにいかないことも多い、それが授業のおもしろさや、やりがいの一つではないかと思います。

悩んだら子どもたちに聞くことも多いです。「今の発言は板書のどこに書いたらいいかな?」「こういう資料があるんだけど、みんなの役に立ちそうかな?」「この後の流れは○○でいいかな?」など、教師が一人ですべて決めるのではなく、子どもたちと一緒に授業展開を考えていくようにしています。



授業の展開に正解はないと思います。だからこそ、一つの展開だけでなく、様々な流れや流れに応じた手立てができるようになりたいものです。そのためにも、今、目の前にいる子どもたちの思いに寄り添って、子どもから日々学び続けていきたいです。

（横浜市立本牧小学校　武藤 由希子）

「楽しい学び de クラスをつくる」では、
みなさんからの質問をお待ちしています!
〈連絡先:北学場〉　kitamanaba@gmail.com

※本冊子に掲載しているイラストはすべてイメージです。

楽しい学び de クラスをつくる（Vol.12）

日文教授用資料［小学校社会］
令和８年（2026年）10月31日発行

編集・発行人　佐々木 秀樹

日本文教出版株式会社
〒558-0041 大阪市住吉区南住吉 4-7-5
TEL：06-6692-1261
FAX：06-6606-5171

本書の無断転載・複製を禁じます。

CD311110120

日本文教出版株式会社
https://www.nichibun-g.co.jp/

大阪本社　〒558-0041 大阪市住吉区南住吉 4-7-5
TEL:06-6692-1261　FAX:06-6606-5171

東京本社　〒165-0026 東京都中野区新井 1-2-16
TEL:03-3389-4611　FAX:03-3389-4618

九州支社　〒810-0022 福岡市中央区薬院 3-11-14
TEL:092-531-7696　FAX:092-521-3938

東海支社　〒461-0004 名古屋市東区葵 1-13-18-7F-B
TEL:052-979-7260　FAX:052-979-7261

北海道出張所　〒001-0909 札幌市北区新琴似 9-12-1-1
TEL:011-764-1201　FAX:011-764-0690